

事業報告書（令和5年度）

事業名 「ICOI 持続化チャレンジ事業～重点 SDGs の質の向上を目指して～」

団体名 NPO 法人国際協力研究所・岡山（ICOI） 担当者名 竹島 潤

※活動の様子がわかる写真と説明を必ず添付してください。

1. 活動内容（日時、場所、参加対象者、人数、内容等）

【活動内容・具体的な方法】

★「SDGs アクション in the World」【SDGs 4・17】

・7/15（土）International Meeting Summer 2023（中学生オンライン国際交流事業）

岡山県内中学生約30名と海外ゲスト15名が全体会・グループ別交流などをオンラインで行い、国際理解と英語表現を楽しみながら行った。異なる地域の中学生世代が協力しながら、英語を用いて交流活動でき大変好評だった。広島大学の協力下、教育効果の検証・分析・フィードバックも行った。

・10/22（土）ICOI オンライン国際講演会①『「微笑みの国」と「日出づる国」の教師・教育交流から見たもの』（タイ）

日本（岡山）とも関係性が高まるアジア圏の国として、タイ王国に焦点を当てた。実際に現地訪問したり、外交レベルで活動されたりしている講師・参加者が集まり、今後の日タイ交流に希望を持てた。一般・関係者約30名が参加。

・11/18（土）オンライン国際講演会②（フィリピン・ラオス）

2部制として、実際に各国で現地訪問したゲストより活動報告をいただいた。その上で、子どもたちの異文化体験や多様性を大切にする姿勢をどのように育んでいくかを意見交換した。一般・関係者合わせて約20名が参加した。



・12/23（土）International Meeting Winter 2023

7ヵ国14名の海外ゲストと岡山県内6中学校21名がオンライン交流した。7グループに分かれてのブレイクアウトでQ&Aや母国（地元）紹介プレゼンをしあった。



・2/17（土）International Friendship Party@ Saidaiji

第五百五十五会西大寺会陽（国指定重要無形民俗文化財）の鑑賞、参加も交えた国際交流イベントを行った。海外友好都市・洛陽市（中国）からのゲストやネパール、アメリカ、オーストラリア、ドイツなどから来岡している留学生たちと日本文化体験を通じた親善活動を行った。参加者数約20名のうち海外出身／初参加者7名は、実際に西大寺会陽及び関連の神事に参加した。



★「SDGs アクション for the World Peace」【SDGs11・16】

・12/25～12/29 日中青少年交流促進団（現地交流活動）

国（政府）間が難しい時こそ草の根交流が大切であることを、教育・青少年交流で示すことができた。団員6名は洛陽市・上海市の中学校や外国語学校など3校を訪問し、生徒・教職員の方々と交流した。南京市での平和・歴史研修や在上海日本国総領事館での意見交換会も大変有意義だった。



★「SDGs アクション for the World Environment」【SDGs7・13・14】

・8/2-8/3 岡山 SDGs フェア（ふくしまボランティア岡山隊・SDGs 海川プラごみ問題）

・8/8（土）第10回おかやま環境教育ミーティング（同上）

上記において、東日本大震災及び原発事故後の現地（福島県双葉郡浪江町）で被ばく牛を生き続ける畜産農家の現実や海・川・プラゴミがもたらす環境問題についての啓発活動をブース、パネルやトークなどで行った。前者はフェア全体で4,000名強、後者は約300名が参加した。



・2/11（日）「希望の牧場⇄中学時代 考え・行動して掴む『希望』！」オンライン講演会&座談会

震災・原発事故後13年を迎えようとする現地について、現地在住のゲストよりお話をお聞きした。多感な中学時代にゲストや被ばく牛、その牧場の存在を知った中・高・大学生たちが、それぞれの成長・発達を経て、当時をどう振り返るか、現在の自分にどう繋がってきたかなどを情報・意見交換することができた。一般・関係者約20名が参加。

★「SDGs アクション with Our Seniors」【SDGs3・4・10】

・10/15 「わがまち SDGs*ESD 2023」にブース出展

地元国際交流団体ダフェ・プロジェクト様と連携し、ブース出展やパネル展示を通して、幅広い世代と交流した。高校生・大学生からさまざまな世代の社会人まで、「SDGs」「国際」等をテーマに基調な時間を持てた。当NPO活動についての概要PRをインタビュー動画で発信することに繋がられた。



2. ESDの視点

①事業を通じて、参加者にどのような気づきや意識・行動の変容があったか

文化・平和・人権・環境などのテーマ設定で参加型や現現場・当事者との繋がりを生かした活動を行ったことで、非営利セクターやSDGs推進視点の活動が、自分たちの手で持続可能な地域や社会を創るうえでいかに重要かに気づき、できることから参画してみようという思いを促せたと考える。特に中学生や20～30代の青少年層は柔軟に受け入れ、アクションを起こす者もあり、今後の連携・協働も楽しみである。

<p>②どのように学び合いを取り入れたか</p> <p>事業の直接的な実施・受益対象者だけでなく、そこに関わる多様な関係者の間で、SDGs4「質の高い教育」の大切さに気づき、学び合えるよう、事後の発信活動や関連の取組を行った。メディアや発表機会を積極的に活用することで、関係間で相互フィードバックを得られた。このような学び合いを持続可能にするために必要なことは何かヒントを得た。</p>
<p>③どのような学びと実践を結び付ける工夫を行ったか</p> <p>これまで同様、気づきや学びを得たユース世代が、社会に提案・発信などをする場づくりに努めた。特に、災害については記憶が風化したり、事物が復興したりすると、自分事として考え学ぶことが難しくなりがちである。そこで、複数回にわたって取組を重ねることで、学び手が発信や支援活動を行うアクターになるよう促した。</p>
<p>3. 取組の成果（事業計画書に記載した事業の目的・目標をどのように達成できたか。事業を実施してどのような成果があったか。）</p> <p>各事業への参加者からは「専門家や行政、企業などに任せるだけでなく、自分が行動を起こしたい」「中・高・大学生の世代でも地域のためにできることがある」「社会人になったら NPO 活動に参画したい」などの声が寄せられた。また、事後活動や発信された媒体などを通して、再度繋がりを生かした実践を行ったり、同様の活動を行う団体への支援に取り組んだり、ESD for SDGs 視点でアクションを起こす主体が繋がり合うこととなった。</p> <p>一部の事業では、外部評価指標「BEVI」(the Belief Events and Values)や「Ai GROW」(IGS 社)などを取り入れて効果検証を行うことで、参加者の特に非認知的側面に変化・伸長が見られることを確認できた。</p>
<p>4. 今後の課題と展望（事業がどのように岡山地域の ESD の取組と持続可能な社会づくりの発展・継続につながるか）</p> <p>これまでの SDGs 推進活動について、学校・社会などの教育フィールドを越えて共有、発信してきた知見を踏まえて、持続可能性そのものを参加者・関係者と追求しようとした。「シニア」「ユース」「世代」などの視点で取組を見直し、時代・社会の激しい変化の中で、“誰一人取り残さない”姿勢を市民に培いたいとの思いだが、NPO 活動は全員が現職で「仕事」や「家庭」なども擁しながら取り組んでいる。実践者自らに、活動を継続する持続可能性が保障されるよう、今度は活動頻度や事業の質を見直すことも出てくるであろう。</p> <p>恐らく、このテーマは本市の他の ESD 推進団体やアクターも抱えているであろうから、今後とも関係団体・関係者と情報・意見の交換・共有をしながら、望ましい在り方を考えていきたい。</p>